

**アークフラッシュされた全国48箇所の老人施設は9年間インフルエンザの発症が報告されておりません。**

< \* > <http://www.arc-flash.co.jp> **アークフラッシュ NEWS をダウンロードによりご覧頂けます**

世界保健機関(WHO)のフクダ事務局長補代理は9日の電話会見で、新型インフルエンザの感染状況に関して、「世界的な大流行(パンデミック)に極めて近づいている」との認識を表明した。これまでの感染の中心だった北半球に加え、オーストラリアなど南半球でも感染が拡大していることに強い警戒感を示した

フクダ氏は感染拡大がこれまでWHOに正式報告されているだけで70カ国以上に上り、特にオーストラリアのビクトリア州では北米などからの旅行帰りの人だけにとどまらない「地域社会レベルの感染」が確認されたと指摘。WHOがパンデミック宣言する段階に「非常に近づいている」と重ねて述べた。ただ、宣言をしても感染者の「重症度が増したことを意味するものではない」として、あくまで地理的拡大を基準にした判断に傾いていることを強調。WHOとして世界の過剰反応を誘発しないような情報提供の努力を続ける姿勢を示した。

世界保健機関(WHO)は8日、新型インフルエンザの感染確認者が世界全体で2万5288人に上ったと発表した。73カ国・地域で感染が確認され、死者数は139人だった。国別で感染者が多かったのは、米国1万3217人(死者数は27人)、メキシコ5717人(同106人)、カナダ2115人(同3人)、豪州1051人(同0人)などだった。

中国で新型インフルエンザの感染例が増えている。中央政府・衛生部は9日、北京市で8人、天津市、湖南省、福建省、山東省で各8人の感染が確認されたと発表した。9日午後8時30分までに中国本土で発表された感染者は累計101人になった。国内での感染も増加している。中国本土の地域別感染者数は以下の通り。( )は全快と判断された人数。

北京市27人(3人)／上海市11人(1人)／広東省24人(1人)／福建省17人(13人)／四川省10人(1人)／山東省2人(1人)／浙江省2人(0人)／湖南省2人(0人)／湖北省3人(0人)／天津市1人(0人)／河南省1人(0人)／山西省1人(0人)  
香港では45人、台湾では24人の感染が確認された

広東省広州市の有力紙、広州日報によると、広州市衛生局の唐小平副局長は19日、新型インフルエンザで感染者が発生した情報の発表が遅れた件で、「隠していたわけではない」と説明した。新型インフルエンザに感染した男性は、4月下旬から米国やカナダ

を旅行し、香港を経由して15日に広州に帰着。検疫で37.7度の発熱が認められ、ただちに病院に搬送された。広東省の当局が「感染疑い例」が発生したと中央政府・衛生部に報告したのは、3日後の18日だった。19日には感染が確認されたと発表された。唐副局長によると、15日に男性が搬送された広州第八人民医院(病院)では、すぐにウイルスの検査を行ったが陰性だった。翌16日の検査でも陰性。17日に熱がひかないため、あらためて検査したところ、新型インフルエンザの陽性反応が出た。17日にはもう一度、詳しい検査を行い改めて陽性の結果を得た。広東省の専門家も患者の容態を確認し「疑い例」と判断したので、18日に衛生部に報告した。衛生部は19日に送られた検体を検査し、新型インフルエンザの陽性反応を得たため、「感染を確認」と発表した。唐副局長は、感染確認までに紆余曲折があったが、事実を隠そうとしたわけではないと、説明した

名古屋市は12日、同市在住の50代のパート女性が新型インフルエンザに感染したと発表した。愛知県では4例目だが、同市での感染確認は初。女性は海外や国内発生地域への渡航歴はないという。国内感染者は22都道府県で計549人となった。

市によると、女性は10日夜に発熱やせきが出たため、翌11日夕に近所の病院を受診した。5人家族で9日以降は名古屋市から出ておらず、接触者は約70人という。

ドイツ西部デュッセルドルフの日本人学校で発生した新型インフルエンザの集団感染で、在デュッセルドルフ総領事館は11日、新たに5人の感染が確認され、感染した児童・生徒が32人に達したことを明らかにした。このほか、最初に感染が確認された児童の家族2人も感染した。

新型インフルエンザ(H1N1)の感染が急速に拡大している。厚生省は11日、新たに30人の感染を確認したと発表した。感染者は前日の16人から一気に46人に増えた。感染した児童が通っている私立小学校は一週間にわたって全校閉鎖する。海外ではなく国内で感染した例が増えており、今後の急増が懸念される。

タイ国営通信(TNA)などによると、ウィタヤー厚生相は11日、記者会見を行い、30人の感染確認を明らかにした。うち、21人は東部のリゾート地パタヤの住民、4人は前日に感染が確認された生徒(11)が通うバンコク都内ドゥシット区の私立小学校セントガブリエル校の生徒とされる。ほかは、感染した児童の母親、米国帰りの女性、シンガポール帰りの男性、米国から帰国する息子を迎えにバンコク新国際空港(スワンナプーム空港)に行った男性、新空港から入国した英国人男性。同省は、タイ旅行から帰国した台湾の大学生が新型インフルエンザに感染していたことから、学生が滞在したパタヤと周辺の感染状況を把握するため、大学生と接触したとみられる住民を対象に調査を行い、結果を11日に公表した。パタヤの感染者のうち、17人はディスコの従業員、4人は医師・看護師。大学生の2人がディスコを訪れたほか、医師・看護師が務める病院で診察を受けていた。

同厚生相は、感染が確認された場合、外出を控えるとともに、ウイルスの拡散を防止するためマスクを着用するよう呼び掛けた。

#### ■学校で感染拡大

セントガブリエル校は 11 日、12～18 日に学校閉鎖すると発表した。前日に 1 人の感染が見つかり、11 日から 3 クラスを 3 日間閉鎖するとしていたが、さらに 4 人の感染が確認されたため、対象を全校に拡大。期間も延長した。同校では 13 人がインフルエンザとみられる症状を出し、検査を受けた。

新型インフルエンザ(豚インフルエンザ、H1N1型)の一部のウイルスに、人の間で流行しやすくなるとみられる変異が起きていることがわかった。河岡義裕・東京大学医科学研究所教授らのチームが突き止め、英科学誌ネイチャー(電子版)に15日、発表した。インフルエンザウイルスの表面には、人間の細胞に取り付く役割を担う「ヘマグルチニン(HA)」というトゲの形をしたたんぱく質がある。研究チームは複数の新型ウイルスを分析した結果、一部のウイルスのHAに変異が生じているのを確認できたという。河岡教授によると、感染者の約6割が死亡する高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N1型)のHAからも、同じ変異が見つかっており、この変異が起きると、ウイルスが人間の細胞にくっつきやすくなる性質を獲得した可能性があるとする。

厚生労働省は、秋以降に大流行が懸念される新型インフルエンザ(豚インフルエンザ)について、国内対応を見直し、患者は原則入院せずに自宅療養とする方針を固めた。ワクチンは、重症化が懸念される糖尿病などの慢性疾患患者に優先的に接種する。近く、新型インフルエンザ対策行動計画の運用指針を改定し、公表する。従来の指針では、全国を〈1〉患者が少ない感染初期地域〈2〉患者が急増し、感染拡大を防ぐ必要がある地域—に分け、感染初期地域では症状の程度にかかわらず、患者を入院させている。しかし、患者の急増が予想される冬以降は、各医療機関で病床が不足しかねないため、新しい指針案では地域分けを廃止し、すべての医療機関で発熱者の診察を行うことにし、糖尿病やぜんそくなど重症化が懸念される患者以外は自宅で療養させる。ワクチンは、7月中旬から来年2月まで製造しても3320万人分しか確保できないため、感染すると重症化しやすい疾患の患者と、医療関係者から接種する。ただし、ワクチン接種の判断が難しい妊婦などの取り扱いを巡り、議論が長引く可能性もある。新指針には、ウイルス感染を早期に発見するための調査体制の修正や、成田空港などでの検疫手法の弾力化も盛り込まれる。

**\* 発行責任者:株式会社アークフラッシュ本部**

笹川 透

03-5337-8860 FAX 5337-7465 [sasagawa@arc-flash.co.jp](mailto:sasagawa@arc-flash.co.jp)

過去のアークフラッシュ NEWS はホームページよりご覧になれます。